

皆さま、こんにちは。日本政府代表の方、甘利大臣、イタリア政務次官アグスティニ様、駐日本全権イタリア大使マリオ・ボヴァ様、そして友人でもありますイタリア貿易振興会会長のウンベルト・ヴァッターニ様、そしてJETROの塚本様、今日は第19回IJBGMミーティングにご参加くださって、ありがとうございます。そして、ご参加くださいました大勢の皆さまにも感謝申し上げます。

私は、今日は大事な役目を持っています。このIJBGのイタリア側会長となることを仰せ賜ったわけです。このビジネスグループは既に歴史的に実績があります。日本とイタリアの関係者の方々がいろいろな形で協力をし、それが結果となって戻ってきています。まさに継続してこれが行われていますが、今日の会場は「ウンベルト・アネッリホール」といい、それも非常に意味深く感じます。なぜなら、今はもうおりませんが、ビジネスグループの最初のころイタリア側の会長としてけん引してくださった方の人の名前を付けたこのアネッリホールで今日は開催されているわけです。

私にとっていろいろな意見交換の入れ物であるこの場所で、ビジネスについて皆さんと論じあっていきたいと思えます。議論の箱ともいえるこのビジネスグループにはさまざまな実績があり、そしてピニンファリーナさんが私の前のイタリア側会長としてさらなる発展をもたらしてくれました。先ほど福原会長がおっしゃいましたように、昨日は既に意見交換を行う機会がありました。その中でこのビジネスグループの大事な目的・課題は、両国の経済・産業の大事なつなぎ手としての役目を担っていくことです。

この両国は同じように歴史が深く、また地質学的にも、地形的にもとても共通点の多く、文化的にも非常に深い造詣があります。この二つの国の経済的的局面は世界の中でも非常に大きいですし、福原会長もおっしゃったように、世界の経済・産業の中で、それぞれが品質の上でもテクノロジーの上でもさらなる発展を行えるはずですので、両国の協力が非常に役に立つはずで、はっきりとした同意を持って、今後ともビジネスグループはこういった方向で貢献をしていかなければなりません。

イタリア・日本の両国は、今後は環境の問題やエネルギーの問題でも、また一般的・全体的な意味でのニューフロンティアともいえる先端技術の面でも、いろいろな面で協力が可能だと思います。また、そうしたニューフロンティアの開発によって、想像もしていないような製品も生まれてくるでしょう。私たちの目的である友好のためにも、今日ここで行われる議論は非常に役立つことでしょう。私もぜひ貢献したいと思えます。

今日は、それぞれ非常に実力のある会社が集まっています。イタリアと日本は、大企業だけではなく中小企業も非常に力強く活動している国です。特に製造業において、彼らの力は非常に大きいものがあります。こうした状況も見ながら、両国とも実業家として、マネジャーとしてお互いに議論し、協力を拡大しながら進んでいきたいと思えます。日本とイタリアという大きな国のそれぞれの素質を補完的に合わせれば、さらにお互いの競争力は大きくなると思えます。そういう意味で「競争」と「協力」という二つの言葉が、まさに今後の私たち二国の関係のキーワードになるのではないのでしょうか。

私たちビジネスグループの役割も、より構造的になっていくべきだと思います。福原会長、先ほどのお話をありがとうございます。私は最善を尽くして共同議長として今日1日を盛り上げていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。ありがとうございます。